

# 新型コロナ

新型コロナウイルスの感染者の増加が止まらない状況が続く。政府は首都圏に続いて各地の都市圏で緊急事態宣言の再発令に踏み切った。これまでの状況を振り返り、これからの課題を展望したい。

過去1年間の日本の新型コロナ対策を振り返ると、人口当たりの死者数は欧米と比較して少なく、全体としては成功している。何よりもこれまで極端な医療崩壊を起こすことなく、死者数を抑えることができた点は高く評価できる。ただし、これらが正念場だ。

## 緊急事態宣言 対象拡大

新型コロナウイルスと対峙する初めての冬、われわれは苦戦を強いられている。緊急事態宣言の対象は東京、愛知、大阪、福岡など11都府県まで拡大された。今後追加される可能性もある。

緊急事態宣言は、新型コロナウイルス特別措置法に基づく市民の行動変容を大きく促す最後の切り札である。ただ、人権や私権への配慮が優先されているため、変容は強制ではなく、説明により納得を得るというコミュニケーション、そして政府や自治体への信頼感に大きく依存している。

首都圏では再発令以降、多くの方々が外出を自粛していることには新

山本 太郎



やまもと たらう 1964年広島県生まれ。長崎大卒。アフリカや中米で感染症対策に従事。専門は国際保健学、熱帯感染症学。

長崎大熱帯医学研究所教授

## 集団免疫 個々の存在を忘れずに

セージを単純に出すだけでは、感染を抑え続けることは難しい。その先に何を指すのか、私たちは今どこにいるのか、ロードマップを示すことが必要だ。

目指すべきは医療崩壊を防ぎ、経済・社会的に困窮する人の生活を守る中で、流行を終息に向かわせるための集団免疫を社会全体で獲得する。これはその両方によって達成される

る。わずかな期間で新型コロナウイルスのワクチンが開発され、いよいよ日本でも接種が始まる見通しだ。これは一つの希望になる。

社会全体で集団免疫を目指すとしても、忘れてはいけない重要なことがある。「小さくても個別の大切な物語」の存在だ。

同じことはワクチン接種についても言える。副作用がないワクチンが存在しない。10万人に1人、100万人に1人というわずかな割合でも起きることは覚悟しておかなければならない。それでも私たちがワクチンを受容する理由は、それがもたらす利益が、個人においても社会においても、副作用の害を上回ると考えるからだ。

## 行動変容 市民も声を掛け合って

新型コロナウイルスと対峙する初めての冬、われわれは苦戦を強いられている。緊急事態宣言の対象は東京、愛知、大阪、福岡など11都府県まで拡大された。今後追加される可能性もある。

感染者の増加傾向からは、単に数が増えただけではなく、感染の場面で変化する状況が懸念されていることが読み取れる。

報告される感染者が実際に感染したのは1週間前くらいである。年明けから増加した感染者のうちのかなりの部分は、正月を共に過ごすような家族や親戚の密着の中で感染が広がっているのが要因である。日常へと拡大してきており、誰もが感染してもおかしくない状況が多くの地域でみられている。

同じやり方をしていても事態は改善しない。医療崩壊や感染の恐れしきで行動変容を促す人はもう変えていく。さらなる行動変容には伝え方の工夫が必要である。政府やメディアにも期待するが、私が最も期待するのは私たち市民である。

一人一人がまず、人と会う機会を減らすこと。その分は、電話やオンラインで、声を掛け合い、会わずにいた春を想像したい。

国際医療福祉大教授

和田 耕治



わだ こうじ 1975年北九州市生まれ。産業医科大学卒業。産業医、北里大准教授などを経て2018年から現職。専門は公衆衛生学。

## オンラインは「小さな教室」

「授業をしないんですか」。

昨年4月上旬、保護者の一言が東京都渋谷区立神宮前小の菅井太一教諭(36)の心に刺さった。出口の見えない休校。

「うちの子は塾に通っているから勉強が遅れるのでは」との不安も耳にした。疑似的な教室を作れないだろうか。タブレット端末を利用したオンライン授業の構想に着手し

を要請すると表明した。翌28日が神宮前小の学期最後の登校日。菅井教諭は大量の学習プリントを児童に配り、「元気に戻ってくるんだよ」と送り出すしかなかった。

新年度となった4月、手代木英明校長(62)が着任し、児童一人に1台配備されていた端末の活用が学校方針として

示された。始業式はできた。そこで会った友達の存在を感じてほしい。菅井教諭がオンライン授業のベースにしたのは「つながり」。親が仕事で一人きりの児童のため、簡単な内容にすることも心掛けた。

4月22日午前10時。担任を務める6年生の教室に、菅井教諭が端末を手に座った。掲示板形式のアプリ「コラボノート」を使い、画面に地球の衛星写真映し出す。音声はなく「付箋みたいなアイコン

に気付いたことを書いて、画面に張ってみて」と打ち込んでほしい。クラス29人のうち9割ほどは自宅から接続。半信半疑で反応を待った。

「陸地より海が目立つ」「日本は小さい」。黄色や水色の付箋が画面のあちこちに現れる。光がない場所はどうなっているの?質問も。1時間ほどの授業を終えても「最近何してるの」「おすめの漫画を教える」と友達同士のやりとりが続く。休み時間のように

な光景に菅井教諭ははっとし

ウイルスの感染拡大を抑えようと昨如決まった一斉休校で、みんなが学業を受けるという教育現場の大前提が崩壊した。収束が見えない中、学校は閉ざされている。

## 新型コロナ時代

## と続くやりとり 学びの場に

## 学校 負の影響は今も

私たちは学校で自宅より長い時間過ごす。遅れを取り戻す土曜日や夏休みの教員からは学業も続けている。

授業で扱うはずの単元で低い。東京都内の公立30代の男性教員の小テストで気が付いた。休校させ、再開後にただけに「遅れ不足の授業にな

ただけでがをしたりする子どもが目につく。これまであまりなかった「頭が痛い」といった理由での欠席も増え、教員らは「疲労がたまっているのだろう」と推し量る。

受験の年を迎えた子どもの不安はより大きいようだ。東京都内の公立中の女性教諭(28)は、3年生からの内申点の問い合わせが増えたと明かす。「例年は1学期の成績が悪ければ夏から頑張ろうと考えるもの。休校の影響で最初の成績評価が秋にずれ込み、取り戻すための時間が短いので焦りがあるのかもしれない」運動会や文化祭といったイベントも軒並み中止や縮小に。「3密」を回避するため、学年を超えた交流行事も少なくなりコミュニケーション能力を育む機会が失われている。都内の公立小の校長は「6年生が1年

### 子ども向け相談窓口

学校生活相談センター  
(24時間子どもSOSダイヤル)  
0120-0-78310

### 長野県子ども支援センター

子ども専用ダイヤル  
0800-800-8035  
(月～土曜日:午前10時～午後6時)  
(日曜・祝日:休み)

### メール相談

kodomo-shien@pref.nagano.lg.jp

### 人権問題に関する相談

みんなの人権110番  
0570-003-110

女性の人権ホットライン  
0570-070-810  
(平日午前8時半～午後5時15分)

### 外国語人権相談ダイヤル

0570-090-911  
(平日午前9時～午後5時)

### 厚生労働省

(0120) 565653  
(受付時間 午前9時～午後9時)

### お困りごと相談センター

県の専用電話  
026-235-7077  
平日 午前8時半～午後5時15分

### 県労政事務所の

緊急労働相談窓口

東信 0268-23-1629

### 発熱など有症状者

各保健所の受診・相談センター  
(24時間対応)  
※身近な医療機関に相談できない時に利用

佐久 0267-63-3178  
上田 0268-25-7178  
諏訪 0266-57-2930  
伊那 0265-76-6822  
飯田 0265-53-0435  
木曽 0264-25-2227